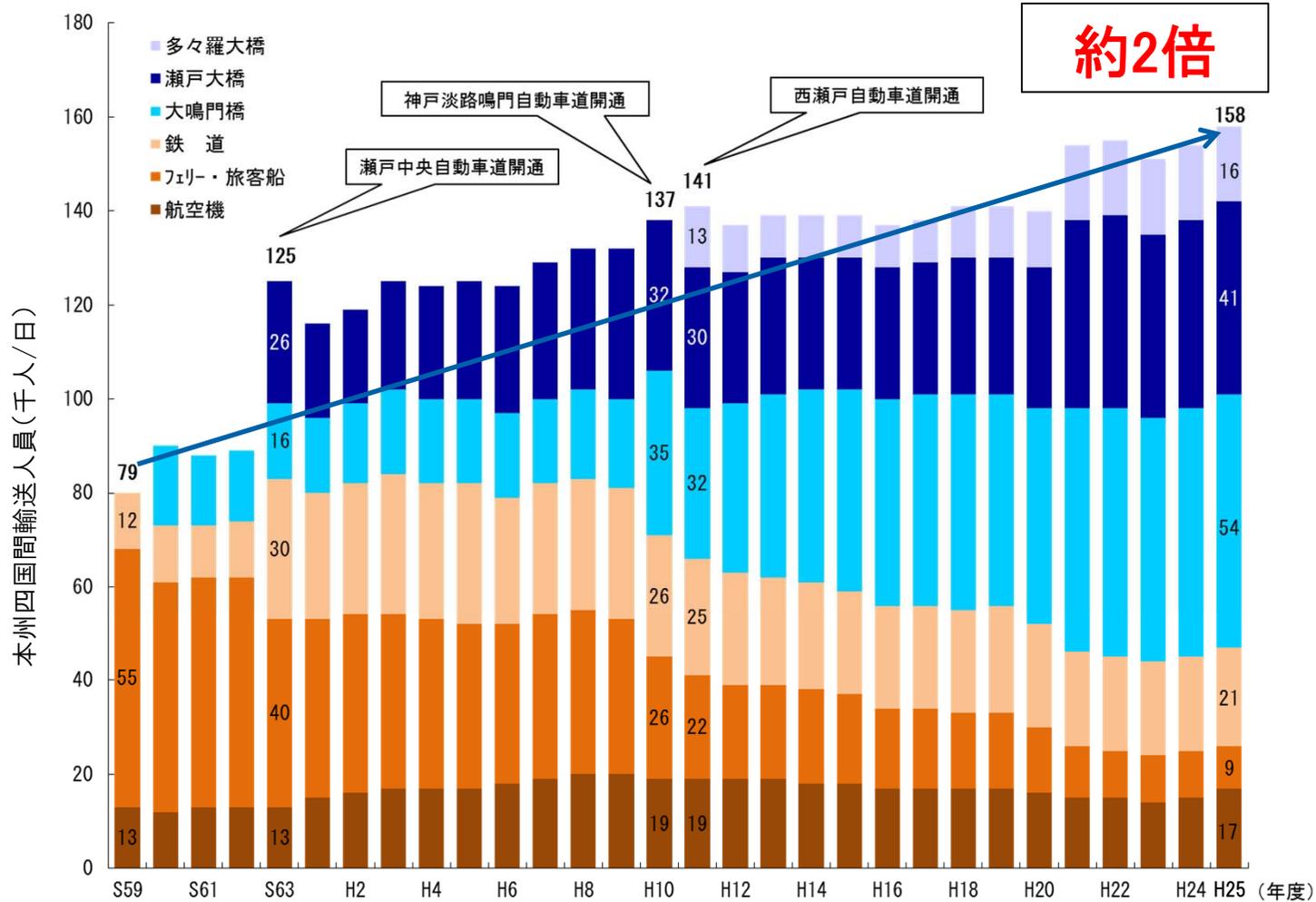


1. 本州四国間交流の最近の状況等について

本州四国間の交流(人の交流)

○本州四国連絡高速道路ができて、本州四国間の交流人口は、約2倍に増加

◆交通機関別の本州四国間輸送人員（推計値）の推移



出典) 四国運輸局「業務要覧」

注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客
開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

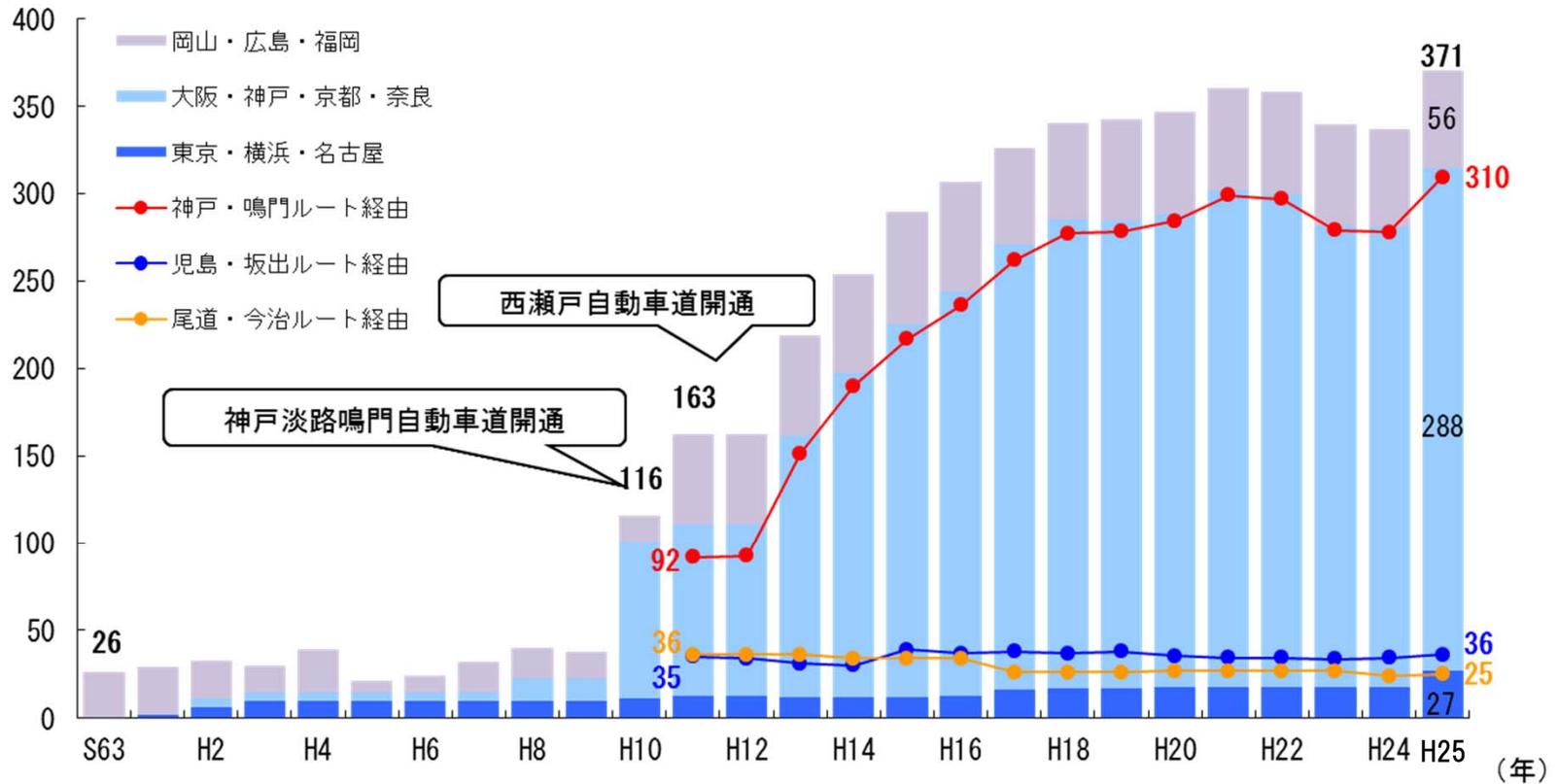
注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間の交流(人の交流)

○本州四国間を結ぶ高速バスは、京阪神と四国を結ぶ路線を中心に大幅に増加

◆本州四国間高速バス便数の推移

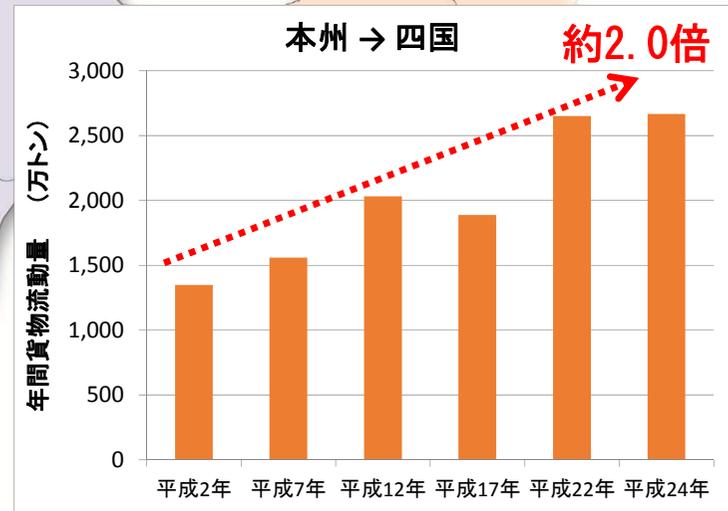
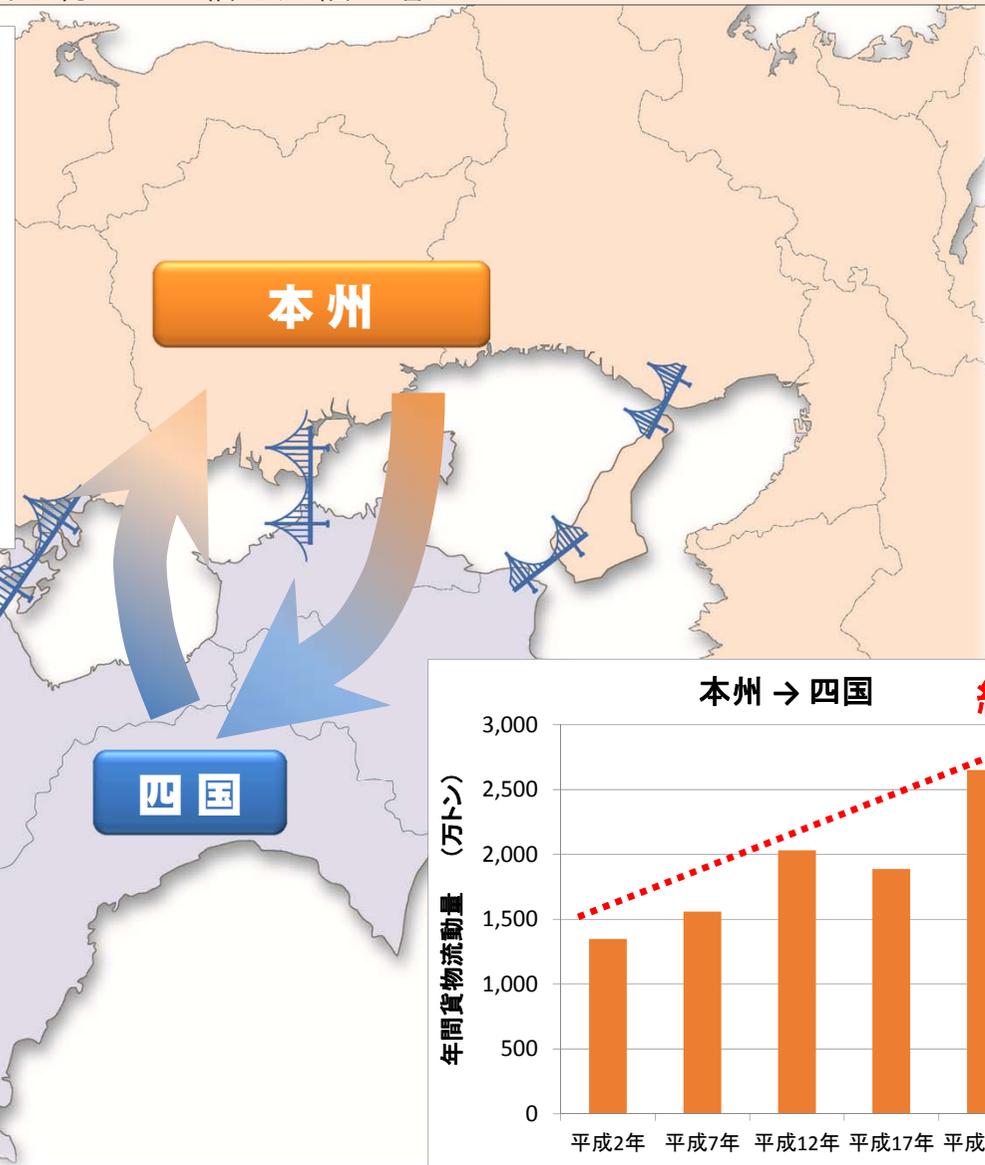
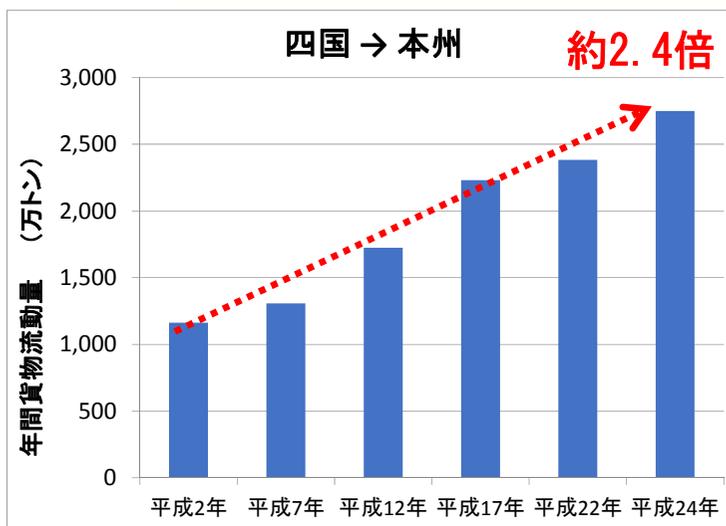
(往復便数/日)



出典)「四国運輸局要覧」(四国運輸局)ほか
注:各年10月時点の便数

本州と四国間の『モノ』の流動推移

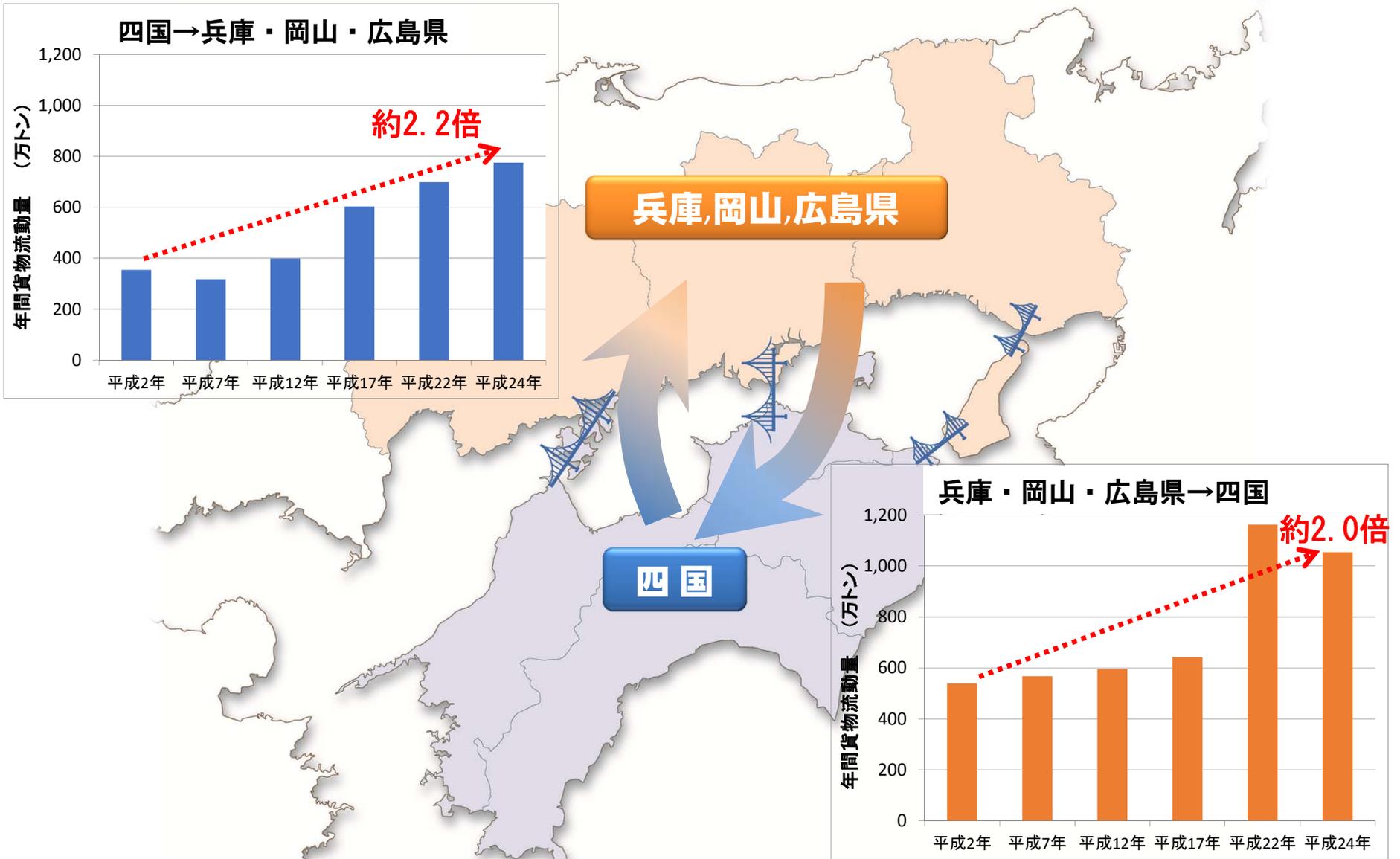
○本州四国間の物流（モノの流動）の交流は、平成2年度以降、
四国→本州は約2.4倍、本州→四国は約2.0倍と大幅に増加



(出典)「貨物地域流動調査」(国土交通省)

【参考】本州(兵庫、岡山、広島)と四国間の『モノ』の流動推移

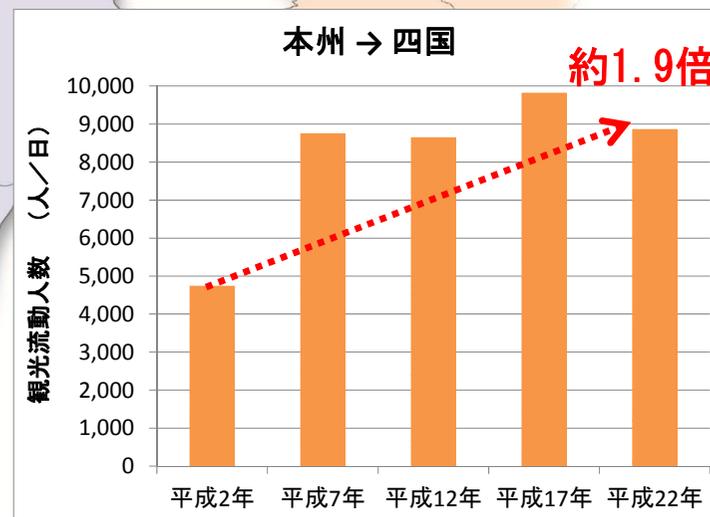
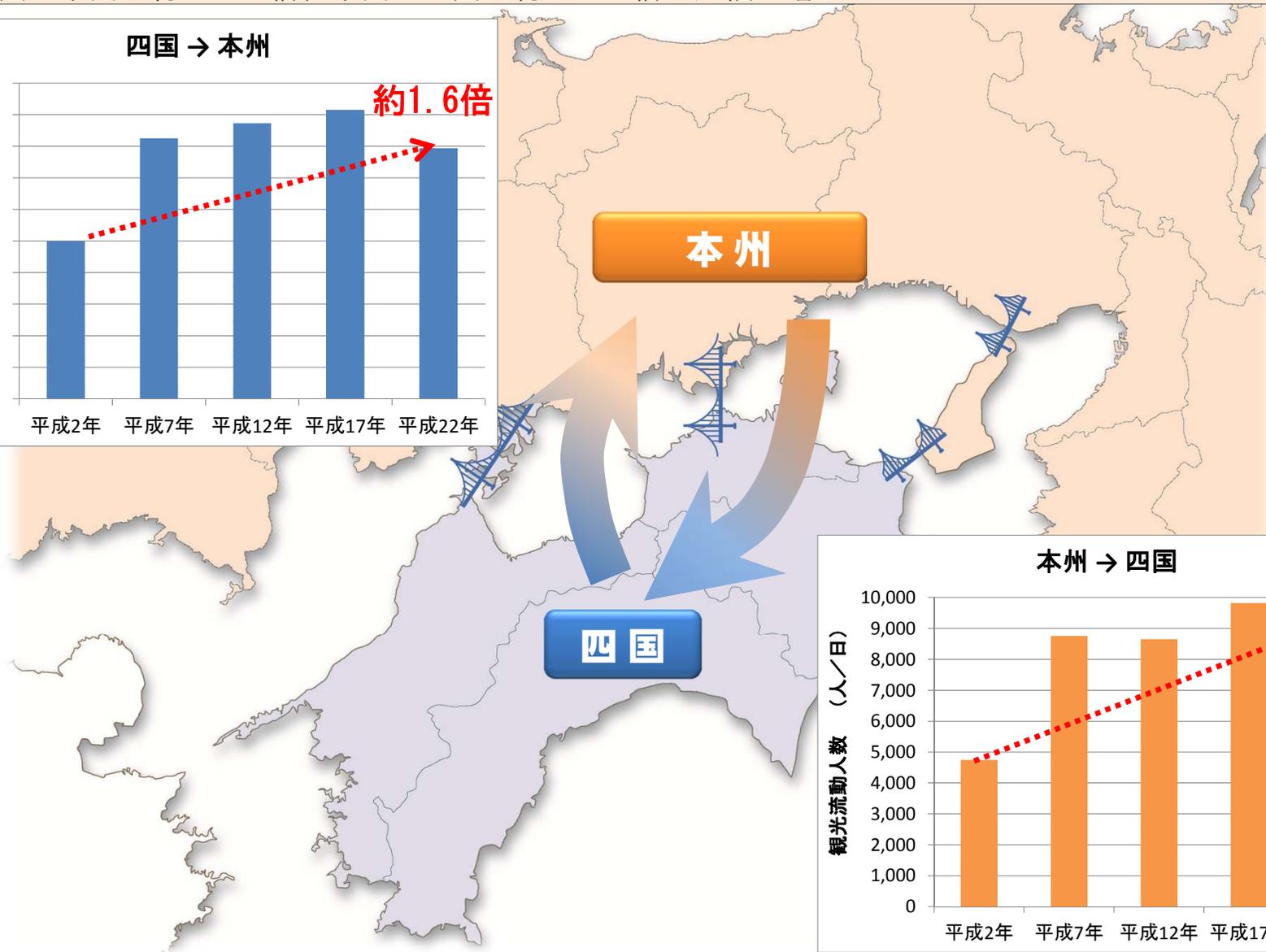
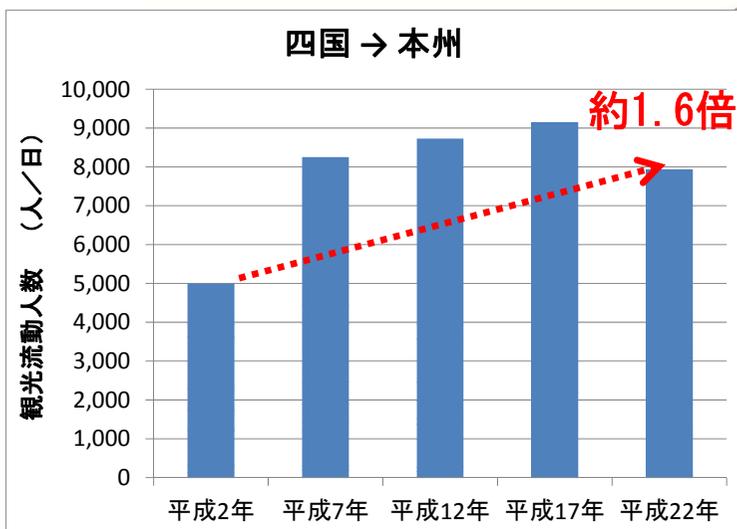
○環瀬戸内海地域における本州四国間の物流(モノの流動)の交流は、平成2年度以降、四国→本州は約2.2倍、本州→四国は約2.0倍と大幅に増加



(出典)「貨物地域流動調査」(国土交通省)

本州と四国間の『ヒト(観光)』の流動推移

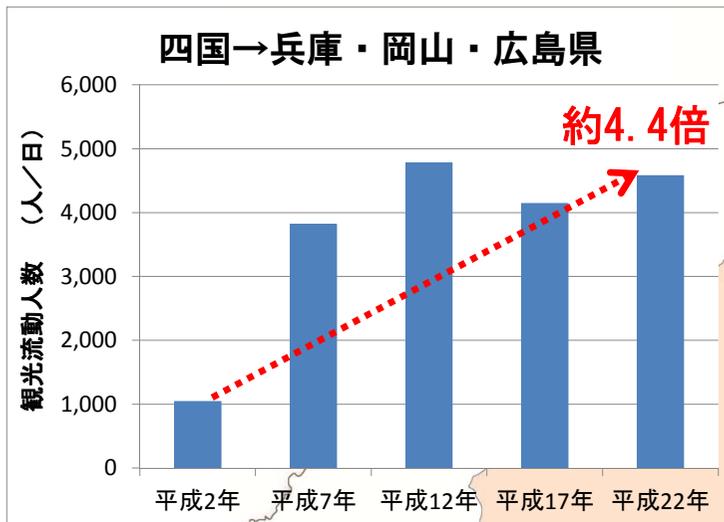
○本州四国間の観光（人の流動）の交流は、平成2年度以降、
四国→本州は約1.6倍、本州→四国は約1.9倍と大幅に増加



(出典)「全国幹線旅客純流動調査」(国土交通省)

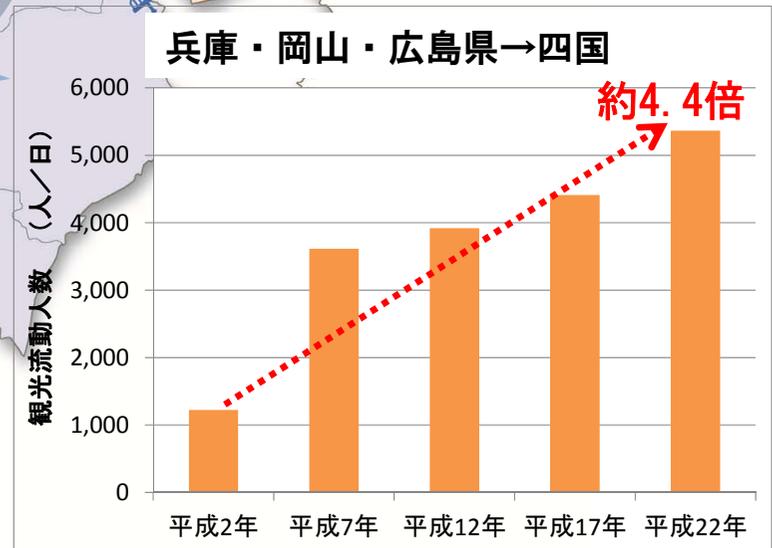
【参考】本州(兵庫、岡山、広島)と四国間の『ヒト(観光)』の流動推移

○環瀬戸内海地域における本州四国間の観光(人の流動)の交流は、平成2年度以降、四国→本州及び本州→四国間共には約4.4倍と大幅に増加



兵庫,岡山,広島県

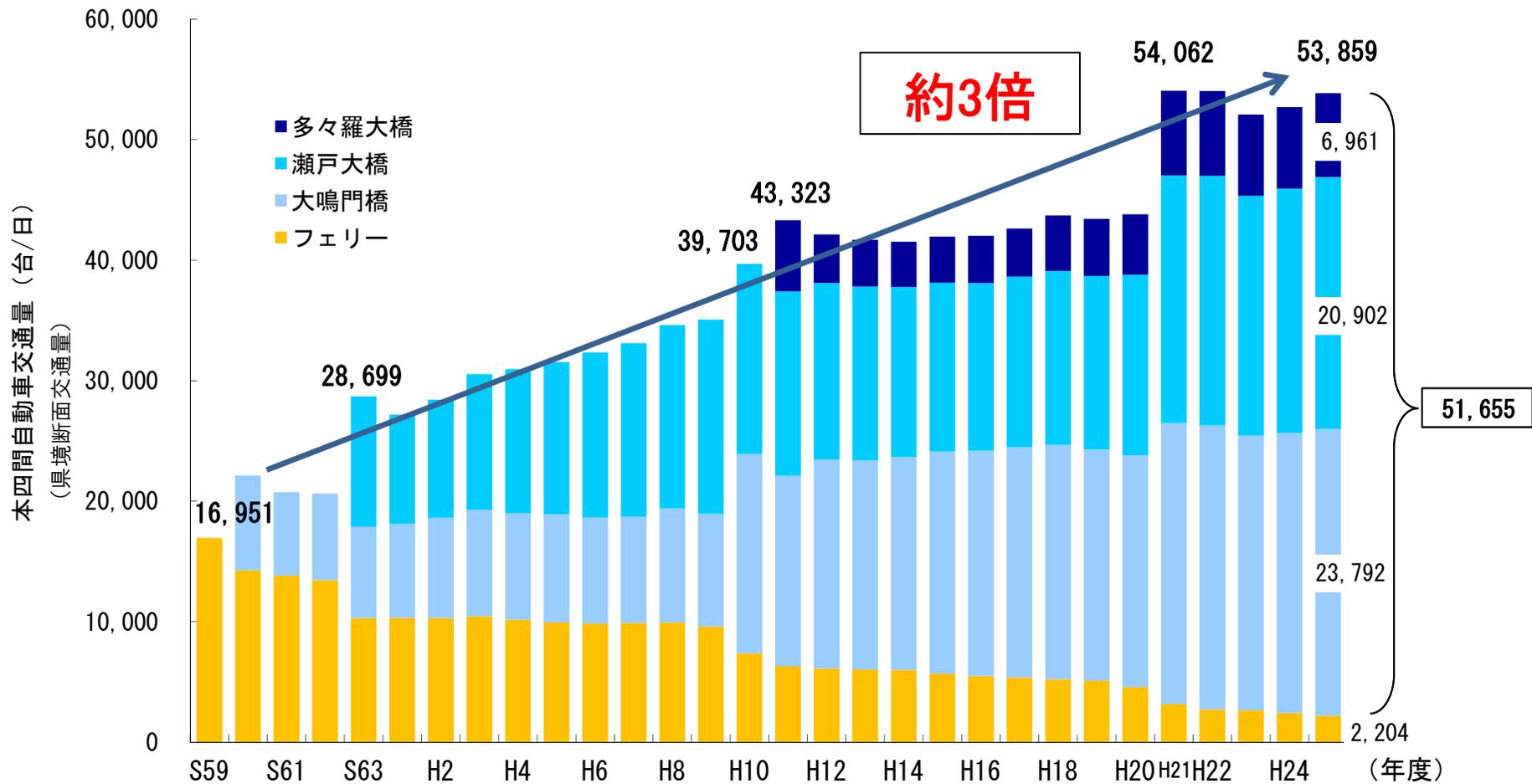
四国



(出典)「全国幹線旅客純流動調査」(国土交通省)

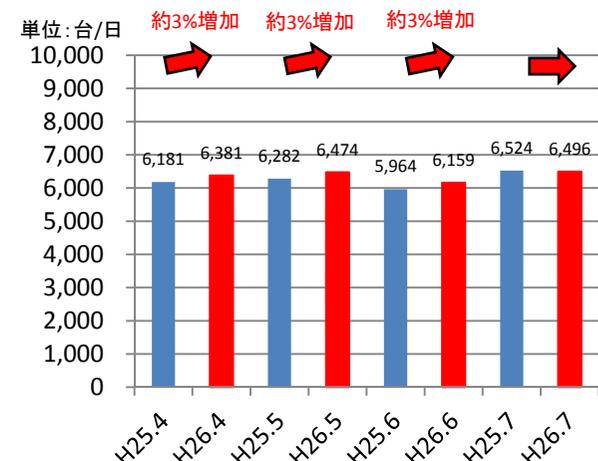
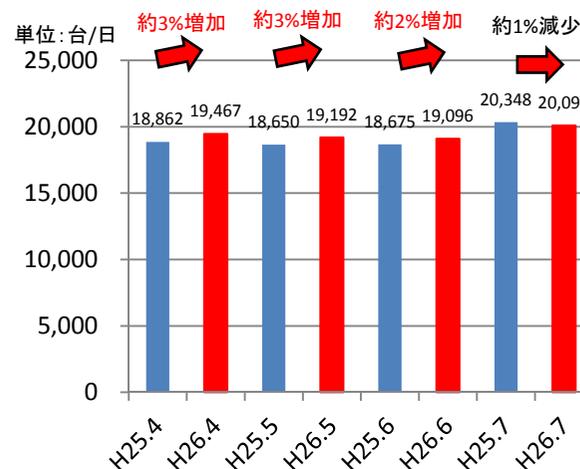
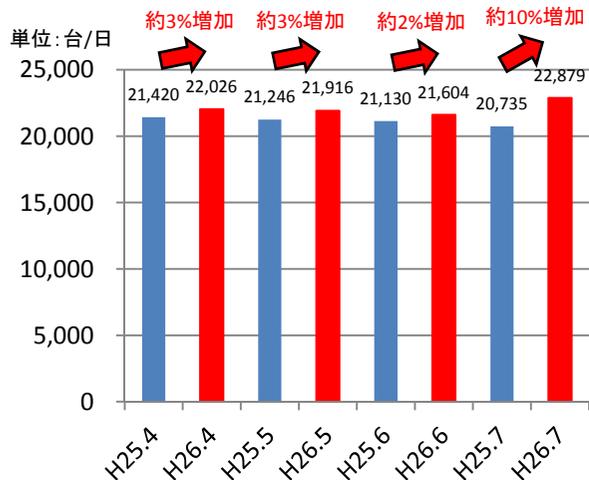
交通量の状況（本四間自動車交通量(県境断面交通量)）

○本州四国連絡高速道路ができて、本州四国間の交通量は約3倍



平成26年4月以降の交通量の変化

- 神戸淡路鳴門自動車道（大鳴門橋）の4～7月までの日平均断面交通量は、対前年度比約2～10%の増加。
- 瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）の4～6月までの日平均断面交通量は、対前年度比約2～3%の増加。7月は約1%の減少。
- 西瀬戸自動車道（多々羅大橋）の4～6月までの日平均断面交通量は、対前年度比約3%の増加。7月は対前年度比と同程度。

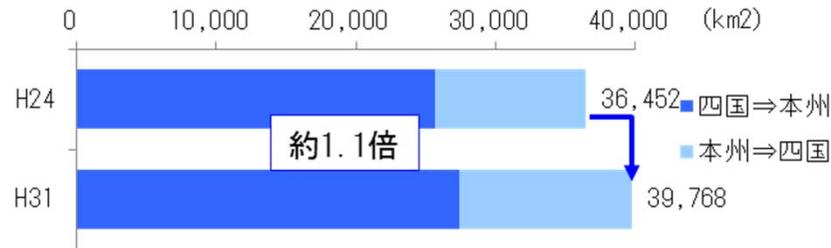


※ゴールデンウィークとその前日（H26.4.25～5.6/H25.4.26～5.7）を除く一部欠測あり

本州四国間の交流(交流圏)

- 移動時間の短縮に伴い、瀬戸内地域の主要都市からの3時間圏域は拡大
- 5年後には、道路事業の開通に伴い、3時間圏域がさらに拡大し、面積は約1.1倍、人口は約1.03倍へ拡大

《圏域面積》

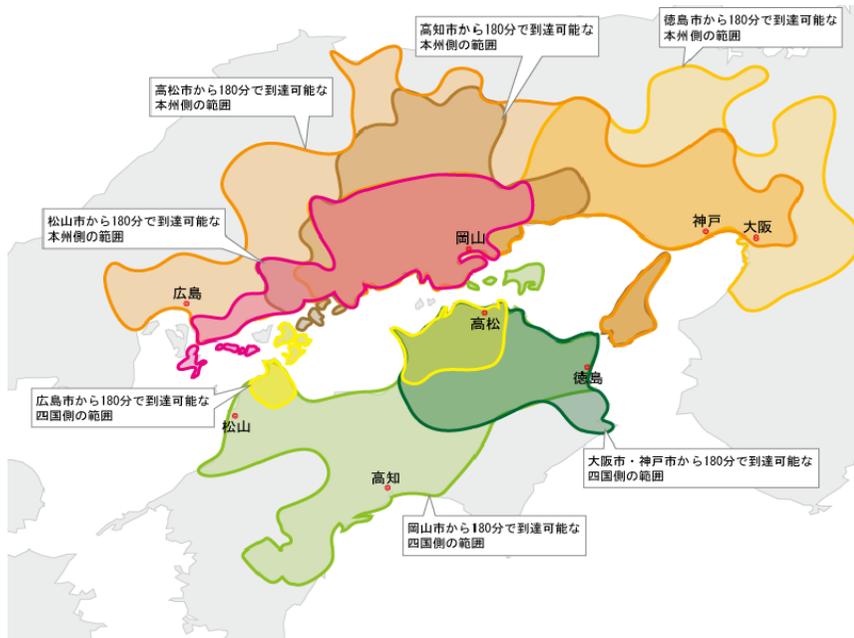


《圏域人口》

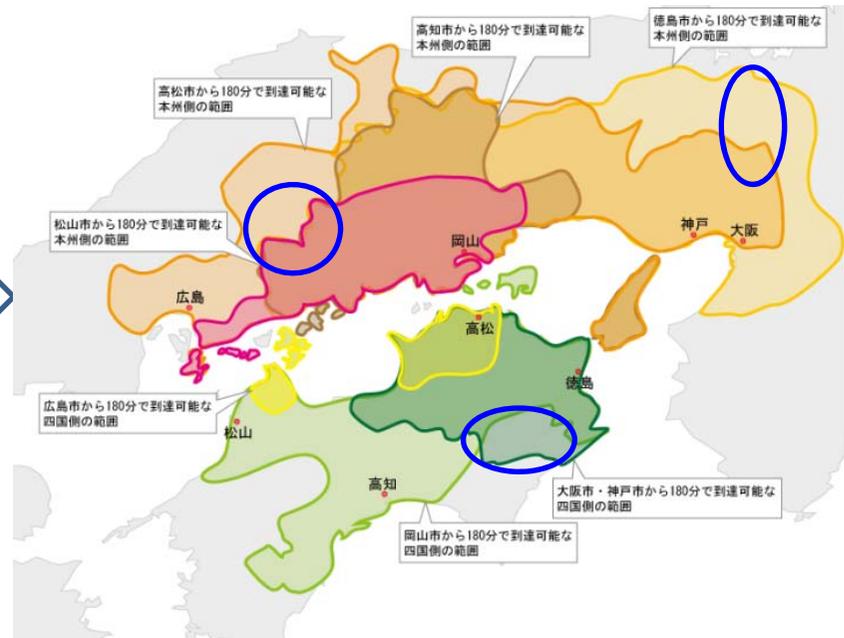


◆県庁所在都市からの3時間圏域の変化

平成24年(2013)



平成31年(2019)



(出典) 「道路時刻表」(道路整備促進期成同盟会全国協議会)、「全国フェリー・旅客船ガイド」(日刊海事通信社)ほか
注:平成31年度までの開通予定路線を考慮

高規格幹線道路の開通見通し状況

